

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.18 2008年8月10日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 HP: <http://www.seikei-seminary.org/>
電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804 郵便振替口座 00190-1-85761 「聖契神学校」

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。二月以来ごぶさをいたしました。今、神学校キャンパスは猛暑の中、夏休みの静けさです。振り返れば、年々賑わいの増す卒業式入学式を経て、十四名を外から受け入れ、六十名超の体制でスタートした2008年度は想像以上の濃さ。レター作成も滞りました。五月連休後の長丁場を息絶え絶えで乗り切った学生たちは、今ごろ休みを満喫していることでしょう。どうか今ここで学びべき福音の奥義を、アタマと祈りと交わりで最大限吸収してくださいね、そう祈らずにはおられません。

「御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち」「ステパノは恵みと力とに満ち」（使徒6：3、8）

校長 関野祐二

● みんなそれぞれ

それにつけても多彩な顔ぶれの新生たち。とはいえ、無茶をしたり羽目をはずす(?)心配な人もいない、とてもまとまりのある雰囲気です。学生会の校内清掃もクラス後に着々と行われています。もっぱら新約クラスで元気がよいのは、教室の後ろを陣取る、第二の人生駆け出しの面々でしょうか。それもまた嬉し、ですね。後期になってレベルアップし、はじめの元気が(愛が?)失せないよう、こちらも内容をかみ砕いて配慮しないとイケません(クイズは例年通り)。

教理史も始まりました。昨秋、聖契ブートキャンプで沸かせたM師もパワーアップし、ペリカン五巻ものテキストの訳者を早速特別講師に招いて、熱烈な授業を展開。案の定半年では終わらず、特別補講を後期に十回続けるそうです(十回では終わらないよ、とのウワサも)。

仕事が終わらずやむなく遅刻する人、電車遅延で駆け込む人(教師も)、夜の授業まで寮でショートステイする人(鍵を渡すキーパーソンは私)、ギリシャ語は机を隣から移動して十九人満席状態、学生ラウンジでは授業後に小宴会、図書室にも人の出入りが多くなりました。みんなそれぞれの歩みをしつつ、ちょうどよい距離で交わりを持ち、献身の思いを共有する、学びも掃除もいっしょうけんめい、そして各自の仕事や家庭も。多様性と一体性、なんだか神学的な美しさです。

● 霊性セミナー&一般啓示研修所

満を持して五月より始まった「霊性と黙想のセミナー」は、大好評のうちに隔週全六回を終了。たいした用もないのに、いつものクセで開始前に会場のチャペルをウロウロ。終わる頃には再び会場内を入口からチラチラ。使用前使用後ではありませんが、二時間のセミナーでこれほど変わるのか、と思うほど、十七名の参加者の顔が輝いています(開始前がどん底の暗さ、ではなかったのですが)。来年度から霊性の専門科クラスを始める講師のY姉も、このセミナーがたいせつな準備になっていると。教師会で味見セミナーをやらしてもらったら、珍しく(?)出席率の良いその日は異様な盛り上がりで、教師たちの饒舌だったこと。健全な霊性を求める心は、教師も学生

も一般信徒も境なしですね。これからはきっと、わが神学校の目玉クラスになることでしょう。

向こうを張ってか張らずか、靈性向上には一般啓示体験も必要、などともっともらしい理由をつけて、この四月以降順調なペースの屋上課外授業を続けています。業者の都合によりPHSアンテナが撤去されて広くなり、A兄の変わらぬ奉仕できれいに塗装された本館屋上。大勢のクラスは望遠鏡を囲んで立ち見ですが、組織神学は四名なので、三畳の莫産（ごぞ）を敷いて皆がゴロン。「天は神の栄光を語り告げ」（詩19：1）そのままの実体験です。おかげで授業時間を食ってしまい、休日に二回分の補講を組む羽目に。GW明け、疲れ気味の新入生が土星を観たことで衝撃的（？）復活体験をした証しをチャペルタイムに聞き、気を良くしているこの頃です。

● ああエアコン

文脈／釈義無視の私的解釈なのですが、「この私が杉材の家に住んでいるのに、神の箱は天幕の中にとどまっています」（Ⅱサムエル7：2）というみことばが、着任以来ずっと心にひっかかっていた。都心の暑さがここ数年尋常ではなく、建物がいったんヒートアップすると深夜でも30度以下にならないからです（最上階はそれ以上）。自分だけエアコン完備の宮殿（！？）に住んでいていいのか。新入生が多く与えられ、収入予算を超えた今年度がチャンスとばかり、多くのプロセスとご理解を得て、男子寮女子寮各居室に7月2日、冷暖房エアコン設置。工事を担当した地元の電気屋さんも、汗をかきかきうれしそうです。これで冷夏だったらどうしよう、とのいらぬ心配も、二日後から到来した猛暑で霧散。あらためて、数年来の心理的重荷が大きかったことを実感しました。さて、肝心の住人たちの反応はいかに？ 昨年まではどうしてたっけ、との思い出話にぼかんとしている新入生たちが印象的でした。聞くところによると、これまでは外出先から帰るとき、祐天寺駅前の店で涼んでから、意を決して帰宅していたそうな（マック難民と言うそうです）。これを機会に自室が片づき、感謝されるのも妙な副産物ですね。

● 海を越え、祈るために

聖契神学校の母体は日本聖契キリスト教団、その生みの親たる米国カベナント教会（Evangelical Covenant Church）の婦人七名が「祈るために」神学校を訪れる、そう聞いても最初はピンと来ませんでした。ただ、祈っていただくには資料が必要と思い、歴史・現状・将来をまとめたペーパーを、かんぺきバイリンガルのP師に翻訳してもらい、当日を迎えました。なんと温かく包容力のある聖徒たちだったことでしょう（神学校ニュースの写真をご覧ください）。隅々まで施設を案内した後、会議室で例のペーパーによる説明（もちろん通訳つきの日本語で）。建物の老朽化と、十数年後には建て替えたいとの構想に話が及ぶとすかさず、「米国に献金のオファーは来るのですか」と。瞬時に、建て替えられた新校舎の幻が脳裏を駆けめぐり、「もちろん！ ワタシが米国に出かけて皆さんの教会をまわります」と、勢いで答えたのでした。そう、きっと、そうなりますよね。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 夏休み明け前期のまとめと、10月からの後期授業のため。休学中や療養中の在校生がすみやかに復学できるように。基礎科新規科目「中間時代」（担当：井上誠師）のため。
- ・ 10月25日（土）のオープンキャンパスに、多くの来校者が与えられるように。
- ・ 神学校の働きが守られ、キリスト教界における使命を新年度も全うできるように。教職員、運営委員、理事の働きが支えられるように。後期からの聴講生が与えられるように。